

カドミレス 黄銅棒

RoHS指令対応
(カドミ75PPM以下)

サイズ
丸棒 4.5~60mm
六角棒 5~40mm

常時豊富に在庫
その他のサイズも対応
可能、お任せ下さい!

株式会社 三木商会
東大阪営業所

〒578-0921
大阪府東大阪市水走3丁目5-10
TEL 072-962-8000
FAX 072-962-8666

日刊メタルレポート

◆自動車生産台数

	8月	9月	10月
生産台数	70万4696台	88万3593台	90万4247台
前月比	-10.9%	+25.4%	+2.3%
昨年対比	+1.8%	-4.5%	+20.3%

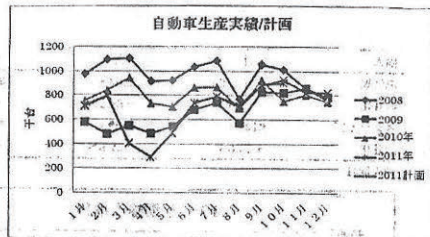
◆自動車販売台数

	9月	10月	11月
販売台数	31万3790台	24万7927台	25万2336台
前月比	+44.9%	-21%	+1.7%
昨年対比	+1.7%	+28.3%	+24.1%

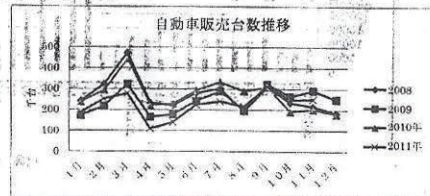
◆生産計画台数

	11月	12月	1月
生産計画台数	92万8千台	82万7400台	82万7800台
前月比	+4.9%	-10.8%	0%

自動車生産台数推移



自動車販売台数推移



国債の金利が危険水域の七%を超えるなどバニックは収まらず結果七、四五一ドル(セツル)と約四五〇ドル暴落しての前半締めとなった。後半はフランスの格下げ報道や、スペイン国債の入札の不調、さらにドイツ国債一〇年物の入札が公募の約六割しか消化されないドイツショックで七、三〇〇ドル台まで急落したものの、米経済指標の好調や日米欧の中央銀行による協調供給拡大策発表を好感し急上昇、十二月一日現在、七、四〇五ドルと(セツル)では変わらないが後場では前半締めから五〇〇ドル強上昇、建値六五万円の好調スタートとなった。

【前月の経済指標】

◆日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前月比二・三%増の九〇万四、二四七台であった。

◆日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前月比一・七%増の二五万二、二二六台。

◆三カ月間の自動車生産計画は昨年対比一四・五%増の二五八万三千台。

(二面へ続く)

発行所
株式会社 日刊金属新聞社
本社 大阪市城東区蒲生1-3-7
電話(06)6932-5443代表
北陸支社 富山市曙町1-30-508号内
電話(076)444-6836
購読料 半年44,100円(前納)3カ月22,050円



橋本健一郎氏

輸入
入スクラップの減少幅縮小
橋本金属
アルミ橋本健一郎氏リポート①

輸出は電気銅が四カ月連続増

【概況】十一月は前半から大荒れの展開となった。ギリシャのパパドレフ首相が金融支援の条件であった緊縮財政を国民投票するとの発言でマーケットはバニック、結果はせずに議会は大連立、首相は辞任。ギリシャに引き続き欧州第三位のイタリアがIMFへの監視下入り、それに伴うイタリアリアがIMFへの監視下入り、それに伴うイタリア

国内銅需給 全般に供給余剰か

銅建値、五九〇六八万円程度を予測

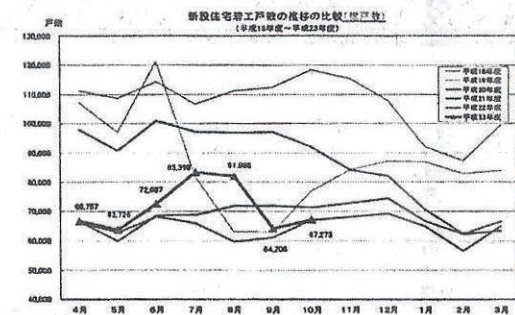
(一面より続く)

◆新設住宅着工戸数

国土交通省によると新設住宅着工戸数は前月比(季節調整済み)三・九%増(昨年比五・八%減)の六万七、二七三戸であった。

	8 月	9 月	10 月
新設住宅着工戸数	8 万 1986 戸	6 万 4206 戸	6 万 7273 戸
季節調整 前月比	-2.2%	-20.2%	+3.9%
昨年対比	+14%	-10.8%	-5.8%

新設住宅着工件数推移



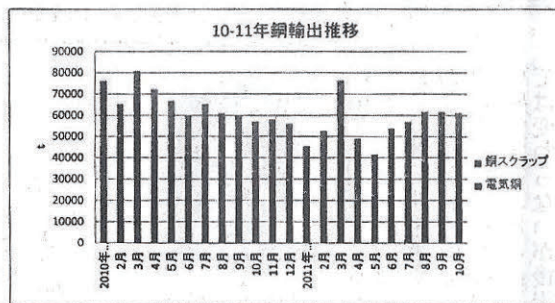
出典 国土交通省 統計

◆貿易関連指標

財務省貿易統計によると、輸出は前月比で電気銅が五・九%増の四万六、三八四t、スクラップが一七・三%減の一万四、七八六t。

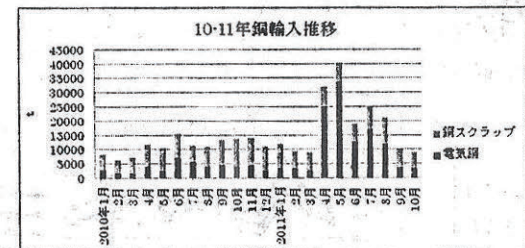
輸出	8 月	10 月	11 月
電気銅	3 万 8114 t	4 万 3816 t	4 万 6384 t
前月比	+23.3%	+15%	+5.9%
スクラップ	2 万 3706 t	1 万 7875 t	1 万 4786 t
前月比	-8.8%	-24.6%	-17.3%

輸出推移



輸入	8 月	9 月	10 月
電気銅	1 万 1963 t	3804 t	3400 t
前月比	-29.8%	-68.2%	-10.6%
スクラップ	9195 t	6199 t	6600 t
前月比	+15.8%	-32.6%	-9.7%

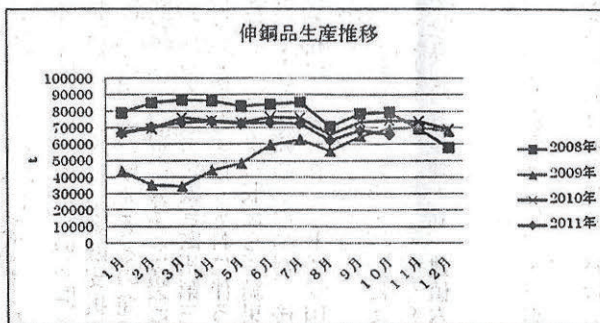
輸入推移



出典 財務省、貿易統計

【前月の国内指標】

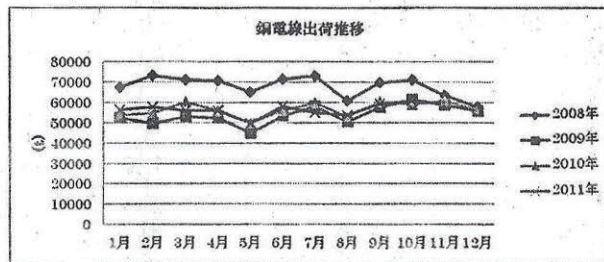
日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前月比四・二%減の六万五、五四〇t(昨年対比一一・五%減)。



出典 日本伸銅協会

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)は、前月比二・六%増の六万〇、七〇〇tであった(昨年対比二・二%減)。(四面に続く)

(二面より続く)



出典 日本電線工業会

【見通し】

前月に続き好調な自動車関連以外が生産在庫調整が進んだ月となった。

自動車生産は前月比二・三%増の九〇万四、二四七台と上昇、前年比でも二〇・三%増と三カ月連続で震災前の水準にもどった。

また国内自動車販売台数も二五万二、二三六台で前年比二四・一%増と急回復、販売回復機運は堅調。

仕様用途が多い伸銅品生産量は前月比四・二%減の六万五、五四〇t、昨年対比で二・五%減と五カ月連続の前年割れ。

銅電線出荷量は自動車関連の好調を背景に前月比二・六%増の六万〇、七〇〇t、昨年対比二・二%減とほぼ横ばい。

新設住宅着工数は季節調整前月比三・九%増の六万七、二七三戸。前年比は五・八%減と復興需要も一段落。

輸出に関しては前月に続き、緊急輸入の電気銅の荷余り感から電気銅輸出が前月比五・九%増の四万六、三八四tと四カ月連続で大幅増加。

輸入に関して、電気銅は国内在庫増から、前月比一〇・六%減の三、四〇〇t、スクラップは九・七%減の五、六〇〇tと大幅減少したものの減少幅は少なくなってきた。

銅需給に関しては、自動車関連には、本格的な需要を前提とした生産・販売が続いている。販売面でも自動車が前年比二四%増と大幅回復した。ただその他の関連は、前月に続き小幅調整している伸銅品、黄銅棒の生産は需要の悪化から引き続き調整がつづくであろう。

う。緊急輸入がされていた電気銅も今月も前月比一〇%減の三、〇〇〇t台と調整を進めているが今月も全体として供給余剰を予測。需給バランスの改善は早く年度末か。

銅価格に関しては、欧州問題はマーケットの予測に反して拡大の様相を見せている。欧州内ではとなればもはや解決は不可能であろう。ただ欧州経済の混乱は世界経済にとってもマイナスであり、IMFなど世界規模での救済策が検討されるのではないかと(現に中国は先日預金準備率の〇・五%の引き下げに金融緩和を行った)。また米経済についてもクリスマス商戦が好調のようであり、またLME、上海在庫の減少や中国銅輸入の増加から中国筋の積み増しが予測でき、先月同様七、〇〇〇ドルを切る水準では実需筋の買いが入るとの思惑からLME価格で七、〇〇〇\$、八、一〇〇ドル。銅建値に関しては五九、六八万円程度と予測している。

LME
非鉄週報

銅、欧州情勢次第か

アルミ、リスク回避姿勢後退

▽アルミ 直物は一五六・五〇ドル高、三カ月物は一四八・五〇ドル高で越週した。週間ベースでは三週ぶりのプラス。日米欧の主要中央銀行による資金供給強化策が好感され、リスク回避姿勢が後退した。

▽ニッケル 直物は一〇二・五〇ドル安、三カ月物は六七・五〇ドル安で越週。週間では五週連続のマイナス。リスク回避姿勢の緩和に伴う買いも見られたが、買いの勢いが持続しなかった。

▽銅 直物は五九七・〇〇ドル高、三カ月物は六〇〇・〇〇ドル高で越週し、五週ぶりのプラスとなった。

欧州連合(EU)首脳会議や欧州中央銀行(ECB)理事会など、今週は欧州関連のイベントが相次いで予定されている。市場では、これら材料を見極めたいとの雰囲気が強まっており、スタンダード・バンクのレオン・ウエストゲート氏は「銅は先週、大きく買い戻されたが、今後の動きは欧州情勢次第だろう」との見方を示した。

▽その他 鉛の直物は一二一・〇〇ドル高、三カ月物は一一八・〇〇ドル高で越週。亜鉛の直物は一一一・〇〇ドル高、三カ月物は一四四・〇〇ドル高でそれぞれ越週した。

すずは直物が四三〇・〇〇ドル安、三カ月物は三七五・〇〇ドル安で越週。